

平成 28 年 論語に学ぶ人間学セミナー

好評を受けて今年で六年目に入った論語セミナー。今年からは、「仮名論語」に加えて、「男の風格をつくる論語」（伊與田 覺著 致知出版社）をテキストに学んでまいります。後半の講義は三木英一先生の人生を熱く語っていただき、本物人間に学ぶセミナーとして十二月までの講座となっています。いつからでも参加できますので、別添お申込書にて申し込みください。ここでは、二月例会のエキスを少しだけ紹介させていただきます。

仮名論語 先進第十一

子^し日^{のたまわ}く、過^なぎ^{およ}たるは猶^な及^{およ}ばざるがごとし。

子貢という弟子が先師（孔子先生）に問いかけた場面。

師（子張）と商（子夏）とはどちらがまさっているでしょうかと尋ねた。先師は答えられた。

「師はやりすぎである。商はやりたりない」子貢は「それでは師は商よりまさっているでしょうか」先師は答えられた。「過ぎたるは猶及ばざるがごとし」

「男の風格をつくる論語」（伊與田 覺著 致知出版社）

第一講 孔子の人的魅力をつくったもの

肉体的生命がなくなっても生き続ける人
「論語」が結んだ孔子の子孫とのご縁
十六歳の第三夫人に生まれた孔子
実践によって確かめられた真実の言葉
貧しかったからこそ何でもできる

三木英一先生の人生講話 「生かされて 生きている」

人間としてこの世に生を享けている有難さのお話から始まり、幼くして出征された父上との別れ、長男としての役割、貧しさの中マツチ箱の内職をしながら二十分で一時間分の勉強をしてこられた。母上は五十九歳で亡くなり、父母の教えと恩師のおかげで今があるとのお話に当時の時代背景がドラマのように映りました。父上の教えを七十年間守ってきたとのこと。その言葉は、
「今日だけは 怒るな 心配すな 感謝して 業をはげめ 人に親切に」 — 朝夕 合掌して
心に念じ 口に唱えよ —

お母様の教え「らしく生きなさい」「謙虚に、そして凜としていきなさい」

先生は、苦しく貧しい境涯を、「天が与えた試練」と真正面から受け止めて、父上と同じ英語教師として生きてこられました。学校だけではなく、広く社会を学ばなくてはならないという思いから人間学を自ら学んで、現在、月刊「致知」の全国木鶏クラブの会長も務めておられます。

次回の講義のテーマは「日日是好日」。

皆様も是非、ご参加ください。次回は、三月九日（水）午後六時三十分からです。